

登録コード	TSX27500	開講年度	2026					
授業科目	都市環境設計学					担当教員	南 健斗	
英文授業名	Urban Environment Design					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・1時限		対象学生	修士課程1年生
講義室	工W1-115教室			授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】					⇔	【授業の達成目標】	
	2 4TSカリ, 2 3TSカリ							
	【研究科共通】人類, 社会の平和的・持続的発展のために, 研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観					⇔	都市環境に関する基礎知識を理解する。	
	2 6TSカリ, 2 5TSカリ, 2 4TSカリ, 2 3TSカリ							
	【専攻】環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力					⇔	都市環境に関する工学的評価を理解する。	
(2)授業の概要	地域に根差した技術および伝統的に作られてきた集落やその住環境についての理解を深め、風・光・熱といった環境的な要素を制御する仕組みについて学習する。さらに、自然環境を活かした建築の事例から、自然環境と建築との向き合い方を考察し、人間の生活が自然環境と共存する建築手法を学習する。地域に根差した技術および自然環境を活かした建築は基本的に学生自身が選定を行う。次に、対象とした地域について、気象データをもとに周辺環境を読み解く。最後に、地域に根差した技術および自然環境を活かした建築について学生自身が調査し、環境的な要素を制御する仕組みについて発表し、その理解を深める。 なお、講義はアクティブラーニング手法で実施する。							
(3)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 地域に根差した技術に関する講義1 第3回 地域に根差した技術に関する講義2 第4回 対象地域の選定、pythonの基礎 第5回 Google Colaboratoryを用いた気象データの分析1 第6回 Google Colaboratoryを用いた気象データの分析2 第7回 気象データの分析3、環境分析手法の紹介 第8回 地域に根差した技術に関するプレゼンテーション1 第9回 地域に根差した技術に関するプレゼンテーション2 第10回 自然環境を活かした建築に関する講義 第11回 事例の選定 第12回 環境分析手法の紹介 第13回 自然環境を活かした建築に関するプレゼンテーション1 第14回 自然環境を活かした建築に関するプレゼンテーション2 第15回 まとめ、授業アンケート							
(4)成績評価の方法	4回のプレゼンテーションの発表, スライドの提出で評価を行う。 90～100点を秀, 80～89点を優, 70～79点を良, 60～69点を可, 59点以下を不可として成績を評価する。 レポートを提出して発表することで可を取る事ができる。							
(5)成績評価の基準	各課題に対して, 「問題の背景が説明できている」「問題設定ができている」「問題解決の方向性や定量化が示せている」の3項目で評価を行う。 3項目の合格水準を満たして, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。 3項目の合格水準を満たしていれば「かなり上にある」。 2項目の合格水準を満たしていれば「やや上にある」。 1項目の合格水準を満たしていれば「合格水準にある」。							
(6)事前事後学習の内容	各自で気象データにアクセスし, 対象地域の環境条件を整理します。また, プレゼンテーションに必要な図版などの作成は, 自主学習になります。30時間を目安に授業における事前・事後の自主学習を行うこと。							
(7)履修上の注意	特になし。							
(8)質問,相談への対応	講義中, および講義の前後に随時受け付ける。 メールによる質問・相談はminami@shinshu-u.ac.jpに連絡すること。							
(9)その他	特になし。							
【教科書】	特になし。							
【参考書】	特になし。							